

RIST30年を振り返って

熊本高等専門学校 教授
RIST元企画委員長

小山 善文



RIST創設当時、上村幹夫電応研初代所長（故人）らの尽力で、当時全国的に注目されたRISTが立ち上がったのを知る一人として、30年は感慨深いものがあります。第1回のRISTフォーラムは、水前寺共済会館で、川路茂保熊大教授（当時）のFuzzy・Neuronについての基調講演から始まったのを思い出します。

当時の資料を引っ張り出してみますと、平成6年から3年間に渡り、画像情報技術の研究セミナーを企画していました。メンバーと毎月会合（含飲み会）を行い、議論を深めたものです。また、平成15年には、人にやさしい技術を考えよう！と、原口隆一氏（当時県工業技術センター）と“ヒューマンウェア技術研究会”を立ち上げ、香水を作ったり市房山の巨大杉を見学するなど遊び的な要素も取り入れ、多彩なメンバーでデザインや感性を工学へ取り込むことを模索していました。その後暫くして平成20年に、当時のRIST会長村山伸樹先生から「企画委員長をやって！」の突然の電話で4代目？をやることになり5年ほど任にあたりました。20周年を控えた時期で、その20周年記念式典では、蒲島郁夫熊本県知事の推薦で、ノーベル化学賞を受賞された白川英樹博士を基調講演者に招く

ことが決まり、「盛大にせんといかんばい！」ということで、多くの企業から寄付を募り、参加者もテルサホールが満員になる大入りで、スタッフ一同安堵したことを思い出します。数年後には中国の隆盛を体感しよう！と、（株）サンワハイテック山下和貴社長はじめ企業・大学そして肥後銀行OBなど約15名4日の旅程で、上海・義烏福田市場視察を執行しました。日本では考えられない義烏福田市場のスケールに、皆唖然としたものです。上海では、中国横河電機訪問など肥後銀行上海支店の方にお世話になりました。文字で表せない中国裏事情など、盛り沢山のイベントに一同満足して帰国しました。私は帰国後ひどい下痢に襲われましたが…。東日本震災直後には、放射線・震災関連セミナーを開催し多くの方が参加されました。さらに、サンワハイテックさんのStavi開発を支援できたことも嬉しいことでした。

振り返ると、メンバーと共にタイムリーなテーマを、真面目にそして楽しく取り組みました。最近では産学官活動も多様化して難しい面もありますが、地域に根ざしたRISTとして、会員およびスポンサーが満足するよう益々の発展を期待しています。